

## 1 得点分布及び小問ごとの正答率

〈表1〉得点分布

得点	人数	650人	
		人 数	%
100	2		0.3
90～99	52		8.0
80～89	73		11.2
70～79	84		12.9
60～69	96		14.8
50～59	88		13.5
40～49	97		14.9
30～39	77		11.8
20～29	62		9.5
10～19	17		2.6
1～9	2		0.3
0	0		0.0

\*合格者の中から、無作為に抽出した650人(13.0%)の結果である。

\*%の数値は、小数点第2位を四捨五入したものである。

〈表2〉小問別正答率

大問	小 問	正答率	
1	1	No. 1 74.8	
		No. 2 84.2	
		No. 3 75.5	
	2	ア 72.5	
		イ 70.5	
		ウ 27.9	
	3	No. 1 90.7	
		No. 2 80.7	
		No. 3 92.6	
		No. 4 53.2	
小 計		73.4	
2	1	① 85.1	
		② 78.3	
		③ 79.2	
		④ 71.2	
	2		82.0
	3		52.2
	小 計		73.6

大問	小 問	正答率	
3	1	4 1. 7	
	2	4 7. 2	
	3	5 9. 4	
	4	工	5 5. 4
		才	4 0. 1
		力	6 4. 5
	5	5 2. 6	
6	3 2. 0		
小 計		4 8. 9	
4	1	(1)	7 5. 0
		(2)	6 5. 0
		(3)	3 3. 1
	2	①	5 1. 8
		②	4 0. 2
小 計		5 0. 9	
5	1	(1)	6 4. 6
		(2)	5 9. 8
		(3)	5 7. 2
	2	5 5. 7	
	3	2 5. 3	
	4	4 5. 8	
	5	2 8. 0	
6	5 6. 2		
小 計		4 3. 5	

〈表3〉大問別の正答率の経年比較

大 問	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
1 リスニング	53.6	57.3	82.2	66.0	73.4
2 対話文読解	57.6	62.4	80.2	60.9	73.6
3 文章読解、文法理解 ※	64.2	83.0	61.0	56.0	48.9
4 表現力	40.4	52.8	53.5	55.9	50.9
5 長文読解	37.8	37.6	56.0	35.4	43.5

※平成24年度の3の内容は、長文読解、表現力・文法。

## 2 分析結果の概要

〈表1〉について、70点以上の人数は32.4%で、昨年度と比べ増加した（昨年度21.2%）。40点未満は24.2%で、昨年度と比べ減少した（昨年度25.50%）。30点未満は12.4%で、昨年度と比べ、高得点層と低得点層の差が広がった（昨年度9.5%）。

〈表2〉1のリスニングの正答率は73.4%で、昨年度と比べ上がった（昨年度66.0%）。また、5の長文読解は、昨年度と比べ増加したものの、大問別でみると最も低い正答率になっている（昨年度35.4%）。全体的に正答率が上がった中で、3の文章読解・文法理解は、昨年度と比べ正答率が低く（昨年度56.0%）、4の表現力も正答率が減少した（昨年度55.9%）。

〈表3〉について、3の文章読解、文法理解は、この5年間で最も低い正答率となっている。

### 3 小問ごとの内容及びねらい

大問	小問	内容	出題のねらい	出題形式			評価の観点			
				記号 選択	記述 ～ 英語	記述 ～ 日本語	関心 意欲 態度	表現 の 能力	理解 の 能力	知識 理解
[1]	1	No. 1	聞くこと	○					●	●
		No. 2								
		No. 3								
	2	ア			○				●	
		イ								
		ウ								
	3	No. 1		○					●	
		No. 2								
		No. 3								
		No. 4								
[2]	1	①	読むこと	○					●	●
		②								
		③								
		④								
	2			○					●	●
	3			○					●	
[3]	1		読むこと		○				●	●
	2									
	3			○					●	
	4	エ			○					●
		オ								
	5			○					●	●
	6									
[4]	1	①	書くこと		○				●	●
		②								
		③								
	2	①			○		●	●		
		②								
[5]	1	①	読むこと	○					●	
		②								
		③								
	2			○					●	●
	3					○	●	●	●	
	4			○					●	
	5					○	●	●	●	
	6				○				●	

## 4 標準解答及び考察

### 1 〈標準解答〉

1	No. 1	ウ	No. 2	エ	No. 3	イ		
2	ア	September						
	イ	began						
	ウ	playing		it				
3	No. 1	ア	No. 2	エ	No. 3	エ	No. 4	イ

#### 〈ねらい〉

自然な口調で話される英語を聞いて、内容にあてはまる絵を選んだり、基本的な英語の音声の特徴をとらえて聞き取った語を書いたりすることを通して、具体的な内容や大切な部分を聞き取る能力をみる。

#### 〈考察〉

- 全体の正答率は、73.4%で、昨年度に比べかなり高い（昨年度66.0%）。リスニングの力は概ね身に付いていると思われる。
- 1の「人物認識」、「依頼」、「道案内」に関する会話の内容を理解し、それぞれの質問にあてはまる適切な絵を選択する問題は、正答率の平均が78.1%で、昨年度（81.7%）と比べ低いものの、日常的な場面における短い対話文を聞き取る力は概ね定着している。
- 2の聞き取った語句を書き取る問題において、無解答がみられたのはアで、イ、ウについてはほとんどなかった。アの正答率は72.5%で、誤答として「Sepetmber」、「Seputember」や頭文字に小文字を使っているものが多くみられた。イの正答率は70.5%で、スペルミスや「began」と「become」を混同している誤答が多くみられた。ウは語と語の連結による音変化を聞き取る力をみる問題であり、正答率が27.9%とかなり低い（昨年度73.5%）。誤答のほとんどが、連結した「it」を「a」、「at」、「in」、「the」等と聞き違えていた。
- 3のNo. 1からNo. 3は、聞き取った内容に対する質問に答える問題で、正答率の平均は88%とかなり高いが、No. 4は、聞き取った内容を基に、情報を組み合わせて答えを導き出す問題で、正答率は53.2%と低い。

#### 〈今後の指導〉

- 具体的な内容や大切な部分を聞き取ることができるよう、聞き取りのための様々な場面や機会を設定して繰り返し演習を行う。
- 日常生活に関わる基本的な語彙や文法事項については、聞いたり話したりするだけでなく、書き取りまでできるように繰り返し指導し、習熟させる。
- 正しいスペルが書けるようにするだけでなく、大文字・小文字を正しく使って書く指導もさらに充実させる。
- 強勢やイントネーション、区切りなど、基本的な英語の音声の特徴をとらえながら聞き取ることができるよう、自然な口調で話される英語に慣れさせる。
- 語と語の連結による音変化については、授業中にその聞き取りと読み方に注目させ、自然な口調で話される英語を正確に聞き取れるよう指導の工夫をする。
- 聞き取った情報を理解し活用できるような場面を設定して、演習を行う。

### 2 〈標準解答〉

1	①	ウ	②	イ	③	ア	④	エ
2	エ		3	イ				

#### 〈ねらい〉

身近な話題についての会話文を読み、話の流れに合っている適切な英文を選んだり、語句や表現を手がかりにして、文脈の中で大切な部分の意味を適切に表しているものを選んだりすることを通して、対話を構成する力をみる。

#### 〈考察〉

- 全体の正答率は、73.6%と昨年と比べ高い（昨年度60.9%）。
- 1の正答率の平均は78.5%、2の正答率は82.0%と高い。
- 英語を通して、話し手の考えや伝えようとしている内容を理解することが求められる3の正答率は、52.2%とやや低い。

〈今後の指導〉

- ・ 会話でよく使われる表現については、実際に使う場面を設定し、ペア活動などを通して練習をさせる。
- ・ 文章を読む際は文脈に注意させ、特に会話文では、対話の流れを理解しながら読む習慣をつけさせる。
- ・ 物語のあらすじや説明文の内容を大まかにつかむことに加え、大切な部分は書き手の伝えようとすることを正確に読み取れるよう指導する。

③ 〈標準解答〉

1	living	2	to
3	ウ		
4	㊦ cloudy	㊧ Thursday	㊨ (例) sunny (fine)
5	ア		
6	ウ		

〈ねらい〉

短い英語の文章を読み、内容から判断して動詞を適切な形に変えたり、内容にあう適切な語を選んだり、場面に応じて適切な表現を選んだりする等の問題を通して、内容を正しく理解する能力をみる。

〈考察〉

- ・ 全体の正答率は、48.9%と過去5年間で最も低い(昨年度56.0%)。
- ・ 1、2は内容を理解した上で文法的知識を活用させる問題で、正答率は1が41.7%、2が47.2%と低い。
- ・ 4は与えられた情報を活用し、伝える内容を英語で正しく書く問題で、正答率の平均は53.3%とやや低く、特に㊧は伝える内容はわかっているが、スペルミスでの誤答例がかなり多かった。
- ・ 5、6は日常的に使われる基本的な英語表現を身に付け、適切なやりとりができるかを問う問題で、正答率の平均が42.3%と低い。特に6は正答率が32.0%と、大問中最も低く、誤答として多かったのはイで、問われている内容を正確に理解できていない。

〈今後の指導〉

- ・ 文章の内容を理解した上で、習得した文法事項を活用できるように習熟させる。
- ・ 日常生活に関わる基本的な語は、文章によるコミュニケーションでも頻繁に使用するので、話せることにとどまらず、正しいスペルで書けるよう指導する。
- ・ コミュニケーションを円滑に進める上で必要となる基本的な疑問文に対しては、聞かれている内容を正確に理解できるよう、授業中の英語による会話の中で習熟させる。

④ 〈標準解答〉

1	(1)	What ( kind of music do you ) like?
	(2)	Could you ( show me a larger one ) ?
	(3)	Is this ( the pen you're looking for ) ?
2	①	(例) I'm very interested in foreign culture
	②	(例) I usually practice reading the English textbook and writing English words.

〈ねらい〉

場面に応じて、語句を並べかえて適切な英文を作ったり、与えられた情報を基に、初歩的な英語を用いて自分の考えなどを書いたりすることを通して、表現する能力をみる。

〈考察〉

- ・ 全体の正答率は、50.9%と昨年に比べやや低い(昨年度55.9%)。
- ・ 1の(1)は種類を尋ねる疑問文を構成する問題で、正答率は75.0%と高い。誤答として「What(do you kind of music)?」が最も多く、他の誤答は疑問詞に「do you」をつないで答えているものが多い。

- ・ 1の(2)は正答率65.0%で、誤答例としては「Could you(show me larger a one)?」、「Could you(show me a one larger)?」が多い。また、語順は正解で「larger」の転記ミスによる誤答も多い。
- ・ 1の(3)は文法と熟語の知識を用いる問題で、正答率は33.1%とかなり低い。誤答例は、前の語句とのつながりを考えず、( )内の語順だけで考える「Is this(you're looking for the pen)?」が多い。他には「Is this(looking for the you're pen)?」、「Is this(looking for you're the pen)?」、「Is this(the pen looking for you're )?」等、「looking」をbe動詞に結びつけたり、分詞として「looking」を使う誤答が多い。内容によってing形を適切に使い分ける力が定着していないと思われる。
- ・ 2の①は理由を答える英作文の問題で、正答率は51.8%で昨年度に比べ低い(昨年度56.3%)。スペルミスや、文構造、語法の理解が不十分である誤答も多いが、無解答は少なく、書こうとする意欲が感じられる。
- ・ 2の②は10語以上で書く表現力を問う問題である。無解答が少ないことから、全般的に与えられた条件にしたがって積極的に書こうとする意欲が感じられる。正答率は40.2%で昨年に比べるとやや高いが(昨年36.7%)、まとものある英語を書くのに必要な文と文をつなぐ接続詞の用法や、文構造、語法の理解が不十分で、質問に対して自分の考えを正確に書く力はまだ定着していないと思われる。

### 〈今後の指導〉

- ・ 日頃から英語を使って授業を進めることで、英語でのやりとりに慣れさせる。また、相手が尋ねている内容を正確に理解した上で、適切な応答を考え、その内容を正しく伝える英文を書く力も、繰り返しの指導によって定着させる。
- ・ 具体的な場面や状況を設定し、その中で出されたテーマについての自分の考えや意見を、その理由を含めて英語で書く練習をさせる。
- ・ まとまりのある英語を書く際に、自分の意向が読み手に対して正しく伝わるように、語と語のつながりや、文と文をつなぐ接続詞の働きに注意して書く指導を行う。
- ・ 文構造や既習の文法事項を意識して、話したり書いたりする言語活動を繰り返し行うことで、正確なコミュニケーションを支える文法の定着を図る。

## 5 標準解答

1	(1)	ア	(2)	ウ	(3)	エ
2	ウ					
3	(例) もし風車を作る力で、地下から水を得るために使われる電気を生み出せるということが本当なら、私は風車を建てることに挑戦してみよう。					
4	エ					
(例) 5	彼がすばらしいことをやり遂げたことと、自分たちの生活がより良くなるだろうということ。					
6	give up					

### 〈ねらい〉

比較的長い英語の文章を読み、内容に関する質問の答えを選んだり、内容を日本語で説明したり、指定された語数で本文中から抜き出し英文を完成したりするなどの問題を通して、文章の概要や要点を理解する能力をみる。

### 〈考察〉

- ・ 全体の正答率は43.5%で、昨年度と比べて高い(昨年度35.4%)。
- ・ 1の正答率は60.5%で、一昨年、昨年より低い(昨年62.3%。一昨年68.4%)。(1)の正答率は3問の中で最も高いが、誤答が様々で、本文の内容理解が十分でない生徒が多いと考えられる。(2)の正答率は59.8%で、誤答としてアが最も多く、続いてイであることから、内容を理解して正誤判断する力が定着していないために、本文中に出ている単語が含まれる選択肢を選択したことが原因であると考えられる。(3)の誤答は、ウが多かったことから、(2)と同様の原因が考えられる。
- ・ 2は分詞の用法の定着を確認する問題で、正答率は55.7%。高得点層には確実な定着がみられる。中間得点層に多かった誤答はイで、イと答えた生徒の中で同じ分詞の用法定着をみる3の1は正解している生徒が多かったことから、理解と定着の不完全な生徒が選択肢に惑わされたものと考えられる。
- ・ 3は英文和訳の問題で、言語活動の充実と正確なコミュニケーション能力の育成という観点から、指示代名詞が示す内容を説明し、適切な日本語にまとめる問題にしている。

正答率は25.3%と低い。誤答は指示代名詞が示す内容を適切に理解していないものに加え、自然な日本語に直すことができていないものも多い。

- ・ 4の正答率は45.8%と低い。英文を表面的に理解するのではなく、書き手の意図する内容まで深く読み取る力に課題がみられる。
- ・ 5は下線部の指す内容を45字以内の日本語で答える問題で、正答率は28.0%とかなり低い。本文から説明箇所を見つける力や、見つけた箇所の内容を正確にとらえ、日本語で簡潔にまとめて表現する力が不足していると考えられる。
- ・ 6は英文全体の内容を理解し、話の流れにあうような英語を答える問題である。正答率は56.2%で、文章の流れをつかんで読む力に課題がある。無解答も多く、品詞を理解していない誤答もあり、語と語のつながりを意識して英語を読んで理解する力が定着していないと考えられる。

#### 〈今後の指導〉

- ・ 限られた時間の中で文章全体の流れを大きくつかみながら、すばやく英文を読ませたり、特定の情報を探しながら、内容を正確に理解することを意識して読ませたりするなど、目的に合ったさまざまな読み方の指導を行う。
- ・ 段落ごとの概要を読み取る力、英語の表現を通して書き手が意図している内容や、登場人物の心情を具体的に日本語で説明する力、指示語が示す内容を正確に理解し適切に説明する力などを、授業中での言語活動を通して育成する。
- ・ 英文全体の段落構成や、段落ごとのつながり、さらには文と文のつながりなどを意識させて読ませる工夫をする。
- ・ 指示代名詞の役割を理解させるとともに、日頃から授業の中で指示代名詞が指す内容を理解しながら、正確に読む習慣をつける指導が必要である。